

# 地域戦略研究室

加藤博和教授 *Hirokazu KATO*

## <テーマ>

**人にも環境にもやさしい「sustainableでresilientな」社会を支える交通・都市システムを実現する！**

- ✓交通政策が地球環境や都市環境に及ぼす影響の評価手法
- ✓低炭素でかつ巨大災害に対応できる交通体系・都市構造
- ✓地域公共交通活性化・再生の方法論
- ✓地方創生を可能とする都市・地域経営のあり方
- ✓「臨床環境学」の創成

## <スタンス>

**固定観念にとらわれない新たなパラダイムを切り開き、臆せず現場に出て、実際の世の中を変えることで、閉塞した社会状況を打破する！**

- ✓「答えは現場にある。現場にしかない」徹底した実態把握によるオリジナルなデータの蓄積
- ✓深い分析・議論・思索を経た「学術的な知見の導出」と「実践的な方法論の開発」の両立

職員 4名（研究員2名、事務員1名、技術補佐員1名）

学生 博士後期課程：1名、博士前期課程：4名、学部：2名

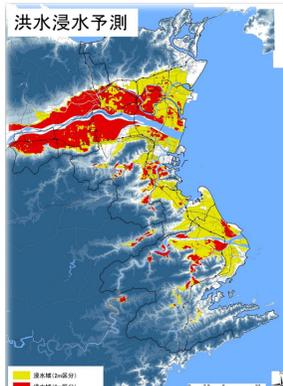
## 研究室の活動

### Think Globally! : 俯瞰的な視野

- ✓国内外の学会での成果発表  
土木学会、都市計画学会、環境科学会、環境共生学会、日本LCA学会など各種学会で発表します（学生は義務です）。
- ✓国際シンポジウムの主催・運営  
研究以外にも社会に出てから役立つ経験をする機会が豊富にあります。

### Act Locally! : きめ細かな方法論

- ✓現場で認識する問題意識  
異国へもためらいなく現地入り！研究成果が実社会にすぐに活用されることも！
- ✓多様なスタッフ・学生間のコミュニケーション  
週1回実施されるゼミでは、論文提出を控えている学生が発表します。教員・研究員・学生が議論をぶつけあい、研究を着実に進めていきます。



## イベントカレンダー

- [春] 4月：新メンバー歓迎会、ゼミスタート  
6月：各種学会発表
- [夏] 8月：夏の中間発表  
8~9月：ゼミ合宿
- [秋] 9~10月：各種学会発表  
10月：土木系教室対抗ソフトボール大会
- [冬] 12月：冬の間発表、忘年会  
2月：卒修論発表  
3月：各種学会発表、追いコン



先端人 持続可能な交通システムを

人にも環境にも優しく、地域の安全・安心を支える持続可能な交通システムを研究している。「よく『鉄道は環境に優しい』と言われるけれど、ガラガラではマイカーよりも1人あたりの二酸化炭素排出量は多いし、線路や車両を造る時に排出される。そこで、ライフサイクル全体で環境負荷が小さくなる交通システムを評価する方法を研究しています」

名大教授 加藤 博和さん (50) 交通政策

朝日新聞2020年8月2日朝刊「先端人」に加藤教授が掲載

1970年、岐阜県多治見市出身。名古屋大学工学部を卒業し、同大学院工学研究科で博士号取得。2001年に大学院環境学研究科助教授、17年から教授に。公共交通での移動だけでなくドライブも好きで、学生時代には走行距離が年間4万kmにもなったという。国土交通省の交通政策審議会委員も務める。

客観的なデータと徹底した現場調査に基づき言葉に、関係者は真剣に耳を傾ける。思いをめぐらせるのは、2050年の公共交通や都市の姿だ。「将来、『30年前の人はよくやってくれた』と言われるような仕事をしたい。責任は重いけれど、やりがいがありますね」(佐藤順志)

[HP] <http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kato/Jkato.htm>（「加藤博和」で検索）  
<http://www.urban.env.nagoya-u.ac.jp/strategy/Jindex.html>（地域戦略研究室HP）

[見学・お問い合わせ]

名古屋大学東山キャンパス 環境総合館4階 425室（プロジェクトルーム）

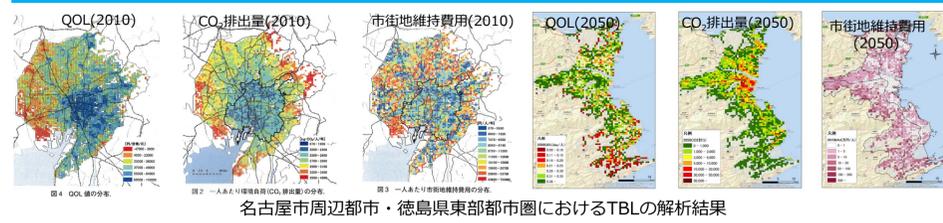
TEL052-789-2772, [yamada.naofumi@b.mbox.nagoya-u.ac.jp](mailto:yamada.naofumi@b.mbox.nagoya-u.ac.jp) 担当：山田尚史（博士前期1年）

# 気候変動・自然災害激甚化・人口減少時代の「都市空間構造変更」戦略

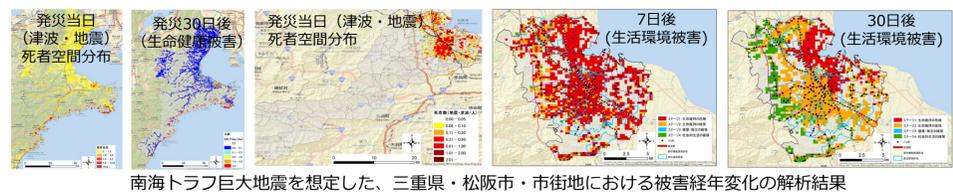
急激な**人口減少**や**超高齢化**が進行。さらに**気候変動**、**巨大自然災害**、**エネルギー危機**が都市・地域の持続可能性の脅威に

- ✓ 都市空間構造変更の必要性を地域が納得でき、その変更のための戦略を主体的に立案・実施するための**統合評価システム**を開発
- ✓ 平常時における、環境/社会/経済のTriple Bottom Line(TBL)各側面に着目した**Sustainability**を定量評価
- ✓ 巨大自然災害発生時における、経済・財産・健康・生活被害の低減・早期回復に着目した**Resilience**を定量評価
- ✓ 2つを同時に、小地区単位で評価することで、都市のSDGs達成のための施策検討を支援
- ✓ 実都市へ適用し、転換戦略策定への反映手法を提案

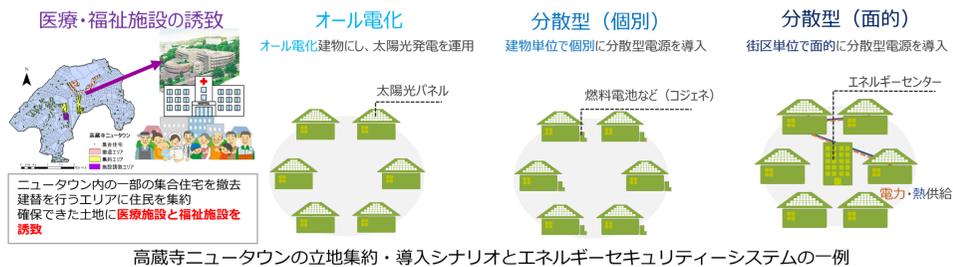
## 1. インフラ・土地利用戦略部門



## 2. 気候変動適応・減災戦略部門



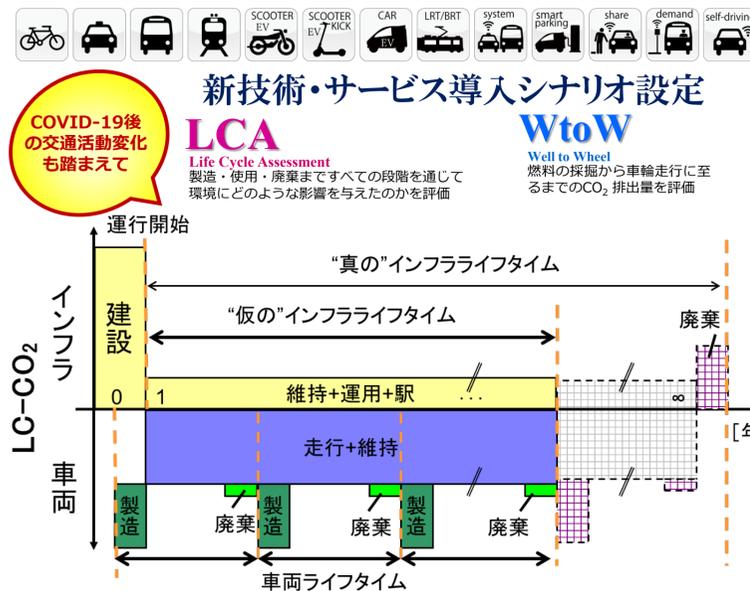
## 3. 低炭素・非常時エネルギーセキュリティ戦略部門



# モビリティ革命が「脱炭素化」を実現する条件の解明

100年に1度とも言われる**モビリティ革命**の進展「脱炭素化に貢献する」と言われることがあるが、**学術的根拠は薄弱**

- ✓ モビリティ革命を推進する**新技術・サービス**が**低炭素性に与える影響**を網羅的に把握
- ✓ 包括的な交通状況変化を考慮し、**交通システムの低炭素性をライフサイクルで評価(LCA)**する方法論を開発
- ✓ モビリティ革命の低炭素効果予測と、状況に応じて導入すべき技術、交通・都市計画における留意点を提示



# 交通・輸送システムへの「気候変動の影響評価」と適応策提案

災害による長期不通など、交通・輸送システムの**気候変動の影響**が増加・**激甚化**しているが、その**評価・予測は未実施**

- ✓ 気候変動が日本の交通・輸送システムに及ぼす影響と、社会・経済への波及を整理し、全体フローを提示
- ✓ 交通網の自然災害に対する脆弱性を、**全国の区間単位**(主要駅間・都市間)、**地区単位**(市区町村)、**輸送拠点単位**で**定量評価**し、施策の実施優先度を試算
- ✓ 低炭素化と気候変動適応を両立させるために交通・輸送システムをどう変えるか、方向性を検討する方法論を構築
- ✓ 実都市の交通計画変更を提言



# 地域公共交通事業への「マーケティング思考」の導入

地域公共交通は、人口減少・超高齢化社会において、生活を支えるインフラとして重要性が増しているが、特に**地方部では維持が困難**  
**地域ニーズに合ったサービス提供**ができていないのが一因

- ✓ 地域公共交通サービス革新の手法として「**マーケティング**」の方法論導入を試みる。その普及推進のため、**産学官が集う研究会**を設立し、研修会を開催

公共交通マーケティング研究会 オンラインセミナー  
地域公共交通関連法改正のポイント  
～公共交通マーケティングに活かそう～

日時	2020年5月29日(金) 10:00~12:30	開催方法	Youtubeによるオンライン配信
参加方法	Peatixよりお申し込みの上、当日配信をご購下下さい		

参加無料